

「バベルの塔」

2020年11月23日

主は人の子らが築いた町と塔を見ようと降って来て、言われた。「彼らは皆、一つの民、一つの言語で、こうしたことをし始めた。今や、彼らがしようとしていることは何であれ、誰も止められない。さあ、私たちは降って行って、そこで彼らの言語を混乱させ、互いの言語が理解できないようにしましょう。」(創世記 11 章 5 節～7 節)

ハムの子孫にニムロドが生まれた。ニムロドについて、「地上で最初の勇士となった者である。彼は主の前において勇ましい狩人であった。それゆえこういうことわざがある。『主の前における勇ましい狩人ニムロドのようだ。』彼の王国の始めは、バベル、ウルク、アッカド、ケルネで、シンアルの地にあった(創世記 10:8b)」と書かれている。全地は一つの言語、同じ言葉であった。この地の権力者はニムロドであったと想像する説もある。シンアルの平地に東の方から人々が移って来て、住み着いた。人々は「さあ、れんがを作り、よく焼こう」と言って、石の代わりに煉瓦を得た。また、漆喰の代わりにアスファルトを得た。煉瓦は大きさや形を自由に調整できる。アスファルトは漆喰より粘着力が強い。大建築物を建てられる優れた資材を手に入れた訳である。そして彼らは「さあ、我々は塔を築こう。塔の頂は天に届くようにして、名を上げよう。そして全地の面に散らされることのないようにしましょう」と言った。高度な文明を持ち、同じ言葉だから、協力することができる。天にまで届く塔を建て、地上に散らされないように、我々の名を上げようと目論んだ。高い技術と共通の言語を基礎にして、神の支配する天に届くほどの壮大な塔を建てようとする傲慢に陥った。

「主は人の子らが築いた町と塔を見ようと降って来て、言われた。『彼らは皆、一つの民、一つの言語で、こうしたことをし始めた。今や、彼らがしようとしていることは何であれ、誰も止められない。さあ、私たちは降って行って、そこで彼らの言語を混乱させ、互いの言語が理解できないようにしましょう。』」神が降って来て、見たものは、神の支配を犯そうとする天まで届くような塔の建設であった。神は、神を犯そうとする人間の傲慢を打ち砕くために、言葉が通じないように乱した。バベルの語源は「バラール」で乱すという意味である。言葉が通じなくなったので、協力できず、争いが起こり、町も塔も築かれず、人々は四散していった。それで塔はバベルの塔と呼ばれる。

神のようになろうとした罪に対する神からの裁きが下された。人は地にあり、天を犯してならない。この戒めを逸脱したのである。この裁きは、現代の科学、医学が超えてはならない一線を超えようとしている高慢への警告として読むことができる。しかし、人々を四散させた神の裁きは、救いと新しい世界への招きでもある。バベルの塔の建設には強力な権力者がいて、彼の下で強制労働を強いられた奴隷がいたであろう。その無謀な権力構造が壊され、解放された人々が大勢いたことは間違いない。更に、人々は散らされた地で諸々の文化、文明を形成した。それは、自らを相対化し、他者を尊重し、互いに共生する新しい世界を生み出すことが求められる。バベルの塔の物語は、人間の傲慢を諭すと共に、人間の尊厳を守る道標を暗示しているメッセージが込められている。

バベルの塔の物語の後、セムの系図が書かれている。セムの系図からイスラエルの父アブラムが生まれている。創世記の記者たちは、天地創造からアブラム物語が始まるまで、神とは誰で、どんな思いを持っておられるのか、人間とは何者なのか、罪とは何なのか、自然はどんな意味を持っているのかなどの基本的メッセージを神話的に伝えている。